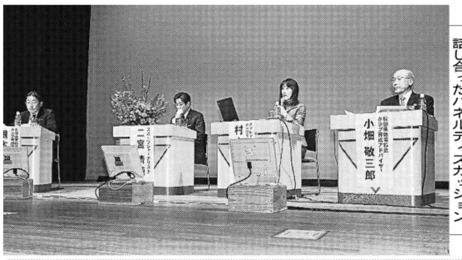
スポーツは地域づくり

総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムinあきた


総合型地域スポーツクラブについて話し合ったパネルディスカッション

日本体育協会主催の「総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムinあきた」(秋田魁新報社、全国地方新聞社連合会共催)がこのほど、秋田市文化会館で開かれた。生涯スポーツ社会の実現を目指す啓発活動の一環。スポーツジャーナリスト・二宮清純氏の基調講演に続き、パネルディスカッションが行われ、総合型地域スポーツクラブが地域コミュニティーづくりに役立つことなどが話された。

基調講演　スポーツを通した地域づくり

スポーツジャーナリスト　二宮　清純 氏

これまで日本にはチームはあったがクラブはなかったと思う。私流に言えばチームは集団、クラブは家庭。チームは目的を達成したら解散するが、クラブは解散しない。そして、これまでファンという概念はあったが、Jリーグができてからサポーターという概念が生まれた。ファンは一過性の関係。サポーターは地域のクラブを支持する人たち。ただ、そこから先の道が築けていない。それは、クラブメンバーだろうと思う。クラブが家庭ならクラブメンバーは家族。いわゆる受益者負担型というか、自分たちの手でクラブをつくっていくことが求められている。

この国の一番の問題は、コミュニティーの崩壊。地方が疲弊し、地方のアイデンティティーが喪失している。少子化の問題に加え、過疎化の問題もある。そうなると産業も衰退していく。若者がいなくなるし、悪循環に陥っている。

Jリーグの百年構想づくりに私も協力したが、構想はまさにコミュニティーを再生しようという運動だった。また、スポーツは雇用促進にもつながる。日本は「教育の一環」一本やりだったが、スポーツは地域活性化の切り札、地域振興のキラー・コンテンツと考えていい。欧州の場合、サッカーの試合はホーム・アンド・アウエー。お客さんが数万人単位で移動する。お客さんが移動すれば交通機関はもうかる。宿泊、飲食店、食料品店、観光スポットなどに人が集まり波及効果は広がる。

一番の成功例は、Jリーグのアルビレックス新潟のある新潟市。一試合平均四万人が来る。年間経済効果は宣伝広告効果も含め数百億円と聞く。老若男女一体となって応援して地域のきずなが生まれ、若者も流出しなくなった。大きなマーケットが生まれたことで内需も喚起した。こういうことが全国各地で起きている。まさに地域密着型のスポーツクラブのよさだ。地域を再生させようじゃないか。心が一つになる。スポーツが盛んになって悪いことは一つもない。まさにスポーツは万能薬。

スポーツは正三角形の原理。一番大切なのは底辺部分の普及、二番目は育成、最後が強化。底辺が一番大切。もう一つの三角形がある。それをクラブとするならば、クラブの中にいろいろなチームがあると考えてほしい。なぜ総合型と言うのか。複数のスポーツをやるというのは非常に大切。成功した選手は複数のスポーツをやっている。テニスの錦織圭君はサッカー、ゴルフの石川遼君は中学で陸上部、宮里藍選手はバスケットボールをやっていた。

スポーツクラブの一番の原点は「お祭り」。老若男女、誰もが参加する。スポーツクラブをつくろうというのは、コミュニティーのきずなをもう一回取り戻そうという運動。

一九九八年のフランスワールドカップの取材にいったとき、地域のラグビー観戦に誘われた。十代から七十代までの各年代から選手が出て一つのボールを追いかけ、親子三世代のきずなを深めていた。

先述したように、今この国が一番抱えている問題が地域の崩壊、コミュニティーの崩壊。コミュニティーの崩壊の前にあるのが、家族や家庭の崩壊。親子の会話がないとか、子供が親を尊敬していないとか。親子三世代を束ねるクラブがない。まさにボール一つで親子三世代のきずなが生まれる。それによってもう一回地域のきずなも生まれる。これがスポーツの持つすばらしさだ。

スポーツの語源は、遊ぶ、余暇という意味だ。遊ぶことはいいことだ。いろんなことを考え、創意工夫することで子供は成長する。総合型のクラブはつくらなければいけないが、ソフトを作ってもハードがないとなかなか遊べない。クラブが受益者負担ということは、会費を払う代わりに意見も言い、民主的な運営をしていく。これを今から各地でつくっていかなければいけない。地域密着型で地域のきずなを深めていく、家族のきずなも深めていく。スポーツは万能薬なんだということをぜひ理解していただきたい。

パネルディスカッション　「地域スポーツの可能性」

パネリスト
- 二宮　清純氏　スポーツジャーナリスト
- 小畑敬三郎氏　秋田県体育協会クラブ育成アドバイザー
- 村上　聖子氏　チャレンジスポーツクラブいなかわクラブマネジャー

進行役
- 根本　光憲氏　日本体育協会生涯スポーツ推進部クラブ育成課長

オンリーワンのクラブ

小畑敬三郎さん

根本　まず、秋田県体育協会クラブ育成アドバイザーの小畑敬三郎先生から、秋田県の現状発表を。アドバイザーは、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業を進めるため日本体育協会が各都道府県体育協会に配置委嘱したもので、兵庫県を除く各都道府県に六十三人、秋田県に二人いて、市町村の啓発促進、育成指定クラブとなったクラブ関係者への指導・助言を行っている。

小畑　平成十六年にアドバイザーの委嘱を受け、合併前の県内六十九市町村をほとんど訪問した。市町村を回ると、総合型地域スポーツクラブへの質問を受けるが、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる地域社会づくり、地域の課題解決へ取り組むシステムづくりの担い手、住民主役で地域ぐるみのオンリーワンのクラブ、と話している。県内のスポーツ施設、学校の運動部活動、スポーツ行政、市町村体育協会はそれぞれ孤立し、地域連携が見えない。これら組織が一体になれば地域が変わる。変わらせるきっかけが総合型クラブ。

競技性だけにとらわれず、遊びの精神があるスポーツクラブ。それがスポーツに縁のない人、スポーツをしたいと思っても仲間に入れない人にとって魅力あるものだと思う。これまで、スポーツ少年団なら少年団、同好会は同好会だけと限られた枠の中にあり、一般の人は入っていけなかった。年代の枠を超えたいろいろな種目が用意されて仲間づくりをしながら活動できる、高齢者や障害者も含めた活動ができるクラブが必要になってくる。これが住民主体のスポーツクラブ。

県内二十五市町村のうち二十三市町村は平成二十年度には総合型クラブに取り組むか設置済みとなる。やがては中学校区や旧市町村ごとに設置される形で動いている。

行政や学校と連携密に

村上　聖子さん

根本　チャレンジスポーツクラブいなかわのクラブマネジャー村上聖子さんに、クラブ設立の経緯と現状についてご報告いただきます。

村上　湯沢市の旧稲川町は、高齢化率の上昇、体育協会加盟者数の減少、二十歳代から四十歳代のスポーツ参加率低下という状況にあり、町村合併によりスポーツ事業の弱体化が懸念されていた。こうしたことを背景に、スポーツクラブが立ち上がった場合のメリットを念頭に置いて話し合いが進められ、核となる体協や各団体が行政との融合を今後も期待するということで設立の運びとなった。事業は、クラブ事業、団体主催教室、クラブイベント事業の三つに分けられる。クラブ事業は主にクラブマネジャーが中心に行っている。特にクラブ報は用紙、印刷など行政の協力を得て発行し、配布も市広報にあわせ地域内全戸配布を依頼している。事務所は稲川支所の一室を借りている。湯沢市スポーツ振興計画の具体的施策に「湯沢市型スポーツクラブの育成発展」があり、行政と民間との協同の部分でバックアップ態勢を支援するという形で、地域密着型のスポーツクラブ立ち上げに取り組んでいる。

クラブ参加者は、設立した平成十七年七月の段階で二百四十三人、ことし二月には四百人に増えた。これまでのクラブ活動がスポーツ情報として広まったことと、スポーツの活動がこのクラブの活動によって啓発された結果だと感じている。

問われている地域の総合力

根本　秋田県の状況とクラブ設立の経緯が発表されましたが、二宮さんいかがですか。

二宮　なぜ総合型地域スポーツクラブが必要なのかというと、これまで日本では、スポーツは学校と企業中心に行ってきた。しかし、学校は少子化が進んで部活動ができない状況になり、地方は過疎化とのダブルパンチ。企業は福利厚生、社威発揚、広告宣伝効果でやってきたが、役割を果たし終えたか業績悪化でスポーツをやめていった。スポーツは公共財。行政や地域が中心になってつくらなければならない。そして学校や企業は公共財を支える側に参加する。学校と企業と地域・行政がスクラムを組んだ三角形の原則。まさに地域の総合力が問われている。

これまでの日本の教育をみた場合、学校教育はあった。会社に入れば社員教育がある。では社会教育はいつ行うのか。まさに世代、性別、職業を超えた交流をすることによって社会教育、社会の在り方を学んでいく。これがスポーツクラブの一番大きなメリット。スポーツにおける地域独自の〝名産品〟を選定するのも大切になってくる。

根本　今、学校で抱えている問題は。

小畑　例えばスポ少。学校の枠でしかとらえていないが、地域の中で活動するのが本来の姿。地域に帰った子供たちには、空間、仲間、時間という三つの「間」が欠けている。

根本　総合型クラブを立ち上げた中で困っている点は。

村上　課題はいろいろある。スポ少が盛んな中で、それだけでとらえてしまっている。競技力志向になると低学年はついていけない。スポ少に登録しない三年生以下はニュースポーツ教室で活動している。

小畑　運動、スポーツに尻ごみする人たちや機会に恵まれない人たちにどう取り組むか。クラブの指導者たちが継続して接し、プログラムの中に「遊び」を入れて引きつけていかないといけない。

二宮　体育とスポーツは違う。体育は教育として学校でやるが、スポーツは地域が行うのが基本。日本は明治時代にスポーツを体育と訳したが、遊びとか余暇という言葉に近い。総合型クラブはスポーツによって豊かな人生を送るために必要なソフトなんだということを理解してほしい。

根本　クラブの活動の場は。

小畑　活動拠点は公共施設がほとんど。学校の体育館を開放してもらっているところもある。悩みは、活動拠点が指定管理者制度になって管理だけの人になっていること。指導できる人が管理していればいいのだが。

根本　ハード面は行政に支援、協力してもらい、クラブがプログラムを提供していく形が総合型地域スポーツクラブ。

二宮　スポーツクラブづくりは豊かな地域づくりだが、もうひとつある。ローカルとグローバル。「グローカル」と呼んでいるが、町をどうやってブランディングして世界に名を売るか。町の名前を売るためにはスポーツが一番いい。クラブづくりには地域を世界のブランドにするという心構えがほしい。

根本　クラブにかかわって、夢や展望は。

村上　自分自身で地域に目を向けるようになった。地域を元気にするにはコミュニケーションづくりが大事だと思う。

二宮　スポーツクラブづくりは、スポーツに理解のない人に理解してもらわなければいけない。スポーツクラブづくりはおみこしと同じ。誰かが手を抜くと傾く。町の総合力が問われている。一番大事なのはスポーツにかかわっているみなさんたち。町をよくしようと思ったら、町の人たちの情熱と愛情。自分の子供を育てるのと同じだ。

主催団体あいさつ

日本体育協会生涯スポーツ推進部　根本光憲氏

国のスポーツ振興基本計画に、生涯スポーツ社会の実現に向けた地域におけるスポーツ環境の整備充実方策がある。国民の誰もが体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を掲げ、成人の50%が週一回は運動やスポーツが行える環境づくりを目標にしている。

この目標達成に必要不可欠な施策に総合型地域スポーツクラブがある。日本体育協会も平成二十二年までに、全国の市町村に少なくとも一つはクラブを育成しようと取り組んでいる。文部科学省の調査では、昨年七月現在、千八百二十七市区町村のうち48・9%の八百九十四市町村で取り組まれ、二千五百五十五のクラブが育成中か設立済み。内閣府調査では、成人の週一回以上のスポーツ実施率は、二〇〇四年の38・5%から〇六年の44・4%に向上している。

総合型地域スポーツクラブは、子供の体力の低下、成人の生活習慣病予防、高齢者の生きがいづくり、地域のコミュニティー形成、活性化など、さまざまな課題解決につながる。クラブ育成に理解をいただき、各地域で設立に向けた取り組みがなされることを願っている。

文部科学省委託事業
総合型地域スポーツクラブ育成推進事業

秋田でも続々誕生！総合型地域スポーツクラブ

スポーツは人々の心や身体の健全な発達を促し、生命力や活力を与えてくれるとともに、健康で豊かなライフスタイルを構築し、夢や生きがいのある社会の形成に重要な役割を担っています。
そして今、秋田県の各市町村でも広く社会がその価値を認知し、いつでも、どこでも、いつまでも、より多くの人がスポーツを楽しめる地域コミュニティーとしての「総合型地域スポーツクラブ」の設立が求められています。
地域の特徴をいかし、地域の皆さんのニーズにあったクラブを地域住民の手でつくるのです。
あなたもぜひ参加してみませんか。

秋田県スポーツクラブ設立状況（平成20年2月現在）

市町村名	クラブ名
鹿角市	①NPO法人鹿角くらすた
大館市	②ブレイジングトルシーダ大館
藤里町	③藤里町総合型地域スポーツクラブ（設立準備中）
八峰町	④八森はたはたスポーツクラブ（設立準備中）
北秋田市	⑤あいあいクラブたかのす
能代市	⑥常盤の里スポーツクラブ
三種町	⑦琴丘地域スポーツクラブ連盟
上小阿仁村	⑧かみこあに総合型クラブスマイル
五城目町	⑨五城目町総合型地域スポーツクラブ（設立準備中）
八郎潟町	⑩八郎潟町スポーツクラブ（設立準備中）
大潟村	⑪大潟村総合型地域スポーツクラブ（設立準備中）
男鹿市	⑫男鹿市スポーツクラブ（2/27設立）
潟上市	⑬昭和スポーツクラブ
井川町	⑭いかわスポーツクラブ（3/25設立）
仙北市	⑮たざわこスポーツクラブ
	⑯NPO角館総合型地域スポーツクラブ
秋田市	⑰NPO法人スポーツクラブあきた
	⑱グリーンスポーツ倶楽部
	⑲総合型地域スポーツクラブエスポルチ秋田
	⑳グリーン翼会
	㉑下浜スポーツクラブ（設立準備中）
	㉒弥生スポーツクラブ（設立準備中）
	㉓ユーニアン城東スポーツクラブ（設立準備中）
	㉔レアル・ジャポンスポーツクラブ（設立準備中）
大仙市	㉕大曲スポーツクラブ
美郷町	㉖美郷町総合型地域スポーツクラブ（設立準備中）
由利本荘市	㉗尾崎スポーツクラブ
	㉘大内総合型地域スポーツクラブ（設立準備中）
横手市	㉙NPO法人よこてスポーツクラブ
羽後町	㉚羽後町総合型地域スポーツクラブ（設立準備中）
湯沢市	㉛みなせスポーツ文化クラブ「楽日人」
	㉜こまちハート・オブ・ゴールド
	㉝チャレンジスポーツクラブいなかわ
東成瀬村	㉞仙人の郷スポーツクラブ（設立準備中）

SCステーション　クラブづくりの意義やサポート体制、全国で展開されているクラブなどの情報が紹介されています。
http://www.japan-sports.or.jp/local/

●お問い合わせ先
(財)秋田県体育協会　クラブ育成アドバイザー・・・TEL 018-867-8161
(財)日本体育協会　クラブ育成課・・・・・・・・・・・TEL 03-3481-2278